

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アプリ児童デイサービス北烏山		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 12日		～ 2026年 1月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年 12月 13日		～ 2026年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様一人ひとりの想いに寄り添い、丁寧かつ誠実な対応を徹底することで、安心して相談できる信頼関係を構築している。	送迎時には保護者の話を丁寧に傾聴し、支援に関する要望があった場合には、可能な限り迅速に対応するよう努めている。	送迎時の保護者要望を記録・共有・振り返る仕組みを整備し、定期的な面談とフィードバックを通じて、双方向の連携体制のさらなる強化を図る。
2	児童の特性を捉えた専門性の高い直接支援に加え、ご家庭での関わり方についても具体的な助言を行うことで、多角的なサポートを実現している。	児童発達支援管理責任者より朝礼時に支援に関する具体的な指示出しを行い、職員間でも日々意見交換と情報共有を実施している。また、必要に応じて児童発達支援管理責任者から保護者へ直接連絡を行い、迅速な支援調整を図っている。	児童発達支援管理責任者に限らず、指導員からも保護者に対してより精度の高い具体的な助言が行えるよう、職員の支援スキル向上を図る。
3	職員間で児童の情報を迅速に共有し、日々の活動や細かな変化を保護者様へお伝えする、透明性の高い情報伝達を行っている。	朝礼や日報、情報共有シート等を活用して職員間で児童の状況を共有し、送迎時や連絡帳を通じて保護者へ日々の活動や変化を伝達している。	送迎時の伝達に加え、連絡帳の内容を一度見直し、支援内容や児童の様子の具体的な記録を充実させ、情報伝達の精度向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所のスペースが限られていることに加え、利用児童が多い日にはさらに手狭に感じられる場面がある。	事業所の延床面積に制約がある中で運営しており、利用児童数が多い日には活動スペースが十分に確保しづらい状況が生じている。	公園や地域資源を活用した屋外活動を増やし、活動スペースの制約を補完する支援体制を検討する。
2	日々の活動報告は行っているものの、児童一人ひとりの状況に合わせた深いレベルでの情報共有ができていないと感じる方もいた。	日々の活動報告は実施しているが、児童個別の状況に即した詳細な情報提供について、保護者のニーズとの間に認識の差が生じている可能性がある。	面談時のみならず、送迎時にも保護者の困りごとや要望を把握できるよう、児発管以外の職員も含めた保護者対応力の強化を行う。
3	日々変化する児童の特性や成長段階について、保護者様と詳しく話し合えていないと感じる方もいた。	日々変化する児童の特性や成長段階について、保護者と十分に共有・協議する機会が限られており、認識の共有が十分でない可能性がある。	児童発達支援管理責任者に限らず全職員が児童の特性や成長段階について保護者と共有できるよう、職員全体での保護者対応力の向上を図る。